

リズムで学ぶ

杉山智恵子先生（チコせんせい）

東京藝術大学音楽学部卒業。ダルクローズリトミック国際サーティフィケート取得後は、演奏家の立場からダルクローズリトミックの有用性を提唱し、国内外にて演奏会・講習会を精力的に行う。元東京吹奏楽団団員。日本打楽器協会常任理事。元日本ジャック＝ダルクローズ協会理事。現在、東京藝術大学音楽学部・同附属高等学校・桐朋学園大学音楽学部・聖徳大学音楽学部・埼玉大学教育学部・金城学院大学兼任講師。警察音楽隊講師。

YouTube チャンネル
MUSIC FOR LIVING にて展開中。
「チコせんせいの教えて知育楽器」に
ご出演されている
杉山智恵子先生にお話を
うかがいました。



打 楽器は叩いたり、擦ったり、振ったり、弾いたりするという、子供が自然にする行為に適しています。まさに打楽器は原点であり、打楽器のパワーが子供の感性を引き出す道しるべとなります。例えば「ベビードラム」「ベビーボンゴ」の打面は本革で作られているので、表面がザラザラしています。そこが大変魅力的で良いところなんです。叩くだけでなく擦っても良い音が出ることを体験出来るわけです。

ピ アノレッスンで“P”で弾いてと指導したい時、言葉だけでは生徒が理解できないこともあります。このような時にリトミックでは“コップにはお水がいっぱい入っているからこぼさないように運んでね”などと伝えます。子供はそれをイメージしてそーっと歩き出します。今度は足を2本の指に置き換え、太鼓の上で指歩きをしてみます。それがさらにピアノを弾く10本指へと繋がっていきます。

生 徒が自分の体験を活かし、自分で『サウンド作り』をする手助けになるわけです。つまり実際動くことで、フィーリングやニュアンスを掴み、それをフィードバックして最終的にピアノ演奏に反映させられるのです。このようなリトミックの体験は、ピアノだけでなく、どの楽器の演奏にも繋がります。打楽器を使う事で、楽器演奏を始める前の音色のイメージを広げ、音を楽しむ体験に役立ちそうです。



MUSIC
FOR
LIVING.

音楽と過ごすやさしい時間